

皆さんは更生保護施設をご存じでしょうか。刑務所や少年院を出た人を対象に、社会復帰をサポートする施設のことです。

昨年、全国で初めて、少女を対象とする更生保護施設が、田川市に開設されました。少年向けの更生保護施設を運営してきたNPO法人「田川ふれ愛義塾」は、木造2階建て、定員4名の女子寮を新設し、少女の更生にも本格的に取り組み始めました。

「少女の更生は、少年とは比較にならないくらい難しい。それは分かっていたけれど、引き受ける所がないなら、やらなければ、と決心した。」

と「田川ふれ愛義塾」の理事長・工藤良さん。

工藤さんは十代で暴走族のリーダーとなり、その後、覚せい剤使用で逮捕されたこともあります。出所後、生まれ育った田川から逃げ出したくなるほどの困難を乗り越えて、更生を果たしました。しかも、工藤さんは自分ひとりではなく、暴走族で知り合った仲間にも更生を呼びかけ、助けてきました。その活動が今のNPO法人としての更生保護施設の運営につながったのです。工藤さんは、

「非行に走る少年も少女も、きっかけの多くは愛着障害です。幼い頃、親などから可愛がってもらえなかったり、虐待を受けたりして育ったのが原因で、情緒面に問題が起こるんです。特に少女の場合、その寂しさなどから悪い大人たちに利用され、

犯罪に巻き込まれることが多い。寂しさにつけこまれていたため、更生しようとしても、同じ犯罪をくり返すのが現実です。」

見た目はもう大人の女性に見える少女が、夜になると寂しさにたえられなくて、工藤さんに「背中をトントンしてくれないと、眠れない。」と訴えます。夜は男性スタッフしかいないため、工藤さんの奥さんが、まるで赤ちゃんにするように、少女が寝付くまで背中をトントンしてあげるそうです。

少女たちが自立するには、環境を変え、長い時間をかけて、いろいろな問題を解決しなければなりません。

私たちも、更生保護施設の意義を理解して、寂しさ乗り越え、真面目に生きていこうと努力する彼女たちを応援したいですね。では、また。

